

4 月例会① 「生田緑地 春の植物観察」

2021 年 4 月 4 日 (日)

緊急事態宣言が解除されたとはいえ、まだまだコロナ禍の終息が見えない中での開催ではありましたが、午後から雨予報にもかかわらず、27 名の参加者が集まりました。最初に観察より安全確保を優先する旨前置きをしたうえで、今日のコースと予定の説明があり、勝山会長から見どころについてお話を聞いてからスタートした。

長者穴口からオカタツナミソウ、シシウドや、花が咲いていたミヤマカンスゲ、タマノカンアオイ、ミヤマナルコユリを観察しながら急坂につけられた階段を上がっていくと、飯室山広場に出る。すぐ南側の斜面にマルバアオダモの花が咲いていて疲れも吹き飛ばすようであった。広場では、モエギスゲ、ヒメカンスゲなどを観察し、尾根に沿ってさらに登っていく。シュンランやニオイタチツボスミレの花を観察し、イヌシデ、クマシデ、ウラジロガシなどを見ながら最後の階段を上がると枳形山広場に出る。ここで早めの昼休憩をとった。トイレの南側にはウワミズザクラやコバノガマズミの花が咲いており、間近で観察できた。また南西側にはフデリンドウの花も咲いていた。昼食の後、広場の北西に階段を下っていくと、右側にアサダ、カマツカ、アワブキが観察できた。また足元に目をやるとチゴユリの花が咲いていた。小さな湧き水のある湿地まで降りてくると、ナガバノスミレサイシン、ツボスミレ、ヤマルリソウなどの花が咲いていた。一旦上り返してイロハモミジの多い広場にあるイヌザクラの木に蕾が多数ついているのを観察した。ハンノキ林に出ると、ミヤマシラスゲが群生し、ジロボウエンゴサク、キブシ、カサスゲ、ヤマグワの花を観察しながら西口の方に階段を上がっていった。西口ではウワミズザクラが多数花をつけていた。オオモクゲンジの横を通り、コナラの花を観察した後は、再び急な階段を下り、奥の池へ出た。メタセコイアとラクウショウの葉や実の違いを観察して、勝山会長のまとめの話を聞いたところで解散となった。雨は時折パラパラと落ちてくることもあったが、何とか本降りになる前に、皆最寄りの駅までたどり着けたのではないだろうか。(文：難波、写真：佐々木あ、難波、菅野)

□当日観察できた主な植物

イワヒバ科：イヌカタヒバ、オシダ科：オクマワラビ、ヒメシダ科：ミゾシダ、ヒノキ科：メタセコイア、ラクウショウ、カヤツリグサ科：カサスゲ、シラコスゲ、ミヤマカンスゲ、ミヤマシラスゲ、イヌサフラン科：チゴユリ、キジカクシ科：ミヤマナルコユリ、ラン科：シュンラン、カバノキ科：アサダ、イヌシデ、ブナ科：アカガシ、クヌギ、コナラ、ウマノスズクサ科：タマノカンアオイ、クスノキ科：アブラチャン、ヤマコウバシ、ケシ科：ジロボウエンゴサク、バラ科：イヌザクラ、ウワミズザクラ、カマツカ、キジムシロ、クサイチゴ、ツゲ科：フッキソウ、ムクロジ科：オオモクゲンジ、スミレ科：アオイスミレ、ツボスミレ、ニオイタチツボスミレ、ナガバノスミレサイシン、セリ科：シシウド、ハイノキ科：サワフタギ、モクセイ科：マルバアオダモ、リンドウ科：フデリンドウ、ムラサキ科：ヤマルリソウ、ガマズミ科：コバノガマズミ、キク科：コヤブタバコ (記録：菅野)



タマノカンアオイ



チゴユリ



マルバアオダモ



コバノガズミ



ウワミズザクラ



フデリンドウ



当日の観察の様子